

神
會
口
興
建
神

特 43
915

特44 特43

699-915

田子丹宮著述

神宮 教會 早多與理

明治三十三年五月
版權 免 訂

神歌堂藏

圖書

先 萃

明
如

田
平
如
角



伊 ぶ ね 人
 勢 以 志 人 ことめし
 神 た の 免
 風 す も さ へ ぶ
 講 ね 子 幸
さしほひ

緒乃言葉

掛卷も恐に天皇神お遣 下は
 道に 一人皆乃行か 下は
 中つ御世より外國人おなま 作り
 成たる道の色々渡り來 枝道も踏
 迷ひぬふ人々お世に多 深く
 七慨かせ玉ひてや 神宮にて

神風講社と結ひ神宮教會と國々野々々開
 かせ給ひし奉つ敷と普く天々下々布らせ玉
 人との有つま御心なふとあがう大意とだま
 え知らぬ人も少なかりしれは田舎者人といと
 やんく悟り得らるるやう俚言といらるは
 短歌を綴りて講社お大旨と成ふまじり

青森縣陸奥國三戸郡三戸町郷社

三戸大神宮御官兼

權少講兼田子丹宮



啓人お志まらるは
 説の魚了講社乃
 早多典利せん

いに乃い

便早

いに乃は短歌

伊勢神宮におまひ會を

魚目鈍智識の差別なく

離れぬ染を結びたひ

日本國は威と示す

ほ 外ほのみ國くによむおのさぬ如
へ 徑みちに一ひと言ことの神かみ風かぜと
と ともく祈いのを奉たてまつる孝かこ
ち ちからに仰おほみ大御神おほみかみ
り 立憲りつけん物もの法ほうよく守まもる

ぬ ぬらとら者ものいふらし
る 累祖るいそと建おつ日ひトたね
を 遠近とんちんとなく交まじり
わ 和順わじゆんと基もとと慈悲じひ深ふかく
か 家内けいだいの如ごとく講社かうしゃ中ちゆう

よ 出 せ 出 づ る 存 け ぬ
 誰 毛 及 ぶ る 産 産 産
 連 年 穀 也 金 を 積 み
 終 年 實 乃 山 と 喜 喜
 つ 了 了 了 了

ね 年 穀 也 金 を 積 み
 存 け ぬ 誰 毛 及 ぶ る
 産 産 産 誰 毛 及 ぶ る
 誰 毛 及 ぶ る 産 産 産
 誰 毛 及 ぶ る 産 産 産
 誰 毛 及 ぶ る 産 産 産

乃のたえや
威徳ハ薄祓ヲ入テ知レ
則ミ教ヲ傳シ神ヲ滅
起スモ抹スモ忘テテす
功カ盡シテ民の爲
倚莫ヒ御座レ

まけふ江
真乃道平立後利
實ハ神國ハ斯ク存レト
富國強兵ハ武
是ヲ講社乃大言ナル
江ニ

えり言かたきいざる

て 天子乃御名なをいそはる
あ 他あた一國くになふ王こまらば
さ さまぐさくたのくもふ
き 君きみとす一海うみと 大おほ名なは
ゆ ゆ魚うい人の天津あま神かみの御子みこ

め 日出めで夜たき國くには生うれ来きる
み 身みは本もと高たかく外とほをぬみ
い 染くみ入いるよのく犯なる
急いそ 醉よひ 赤あかれをのことは是こゝなる
ひ 人ひとたふ人の溝みぞ平ひらの硯い

斗 本 心 一 心 二 念 念 念
せ 本 心 一 心 二 念 念 念
す 皇 大神 祈 奉 祀

い乃は短歌終

一 心 祈 禱 祈 禱 祈 禱
二 夜 中 夜 中 夜 中
三 度 度 度 度 度 度
四 海 静 静 静 静 静 静
一 二 乃 歌

五ご一いつ新しん 又また新しん 更さら 平へい
 六ろく一いつ歲さい童どう之の書しよと學まな以ひ
 七しち賢けん人じんと及およ以ひ老らう考こう
 八はつ明めい智ち識し也や子こ出い之の
 九きゅう疾ぢく誰たれも愚おろ可か邪じや之の

十じゅう方ほう富ふみ 到いたる 神かみ國くに

神戒五ヶ條

- 一 天津御祖と致ふ物
- 一 皇國此清恩と致ふ物
- 一 一人六子道と致ふ物

一 家業と屬み知志

一 悪き行ひなるべし

右ハ神風薄社と交換乃

基本互利

附録説教いろは短歌

いろはの字 三まひま 多たまへ

樓閣花壇美 ろうかく かく くらん び 一も

花 えな い ちる 家 いへ 敗 くづ 子

人間 まんと 僅 ひん 五 ご 十 じゅう 年 ねん

いろは

ほ 念ほ也を悟をさをつつ一一み
謹へりくたび了き身と保り。
篤とく實じつのと必よ以以を終
此ちも悪き事なららハ
利益りき阿あつつも也いふんじ
り ち と へ ほ

ぬ 女 他 と 思思ふ
累るい債せう 人 なんの 善ぜん
折せり若わ罪つみを犯すゆ五
我わがが 永なが身みと苦むむる
彼かれが 多た少せう色いろや 酒さけ
か ち を る ぬ

よ 夜遊よあそびの過すぎり傍そばを全ぜんす
た 立たちぬきゆき踏ふみまよひ
れ 了れう簡けんては邪よこしまと工たくみ
そ 於おらへ押おしけしとななる
一 終しゆう親しん戚せき見み放はなすん

ね ねぐら定さだむ水みづ鳥とりは
な 泣なく外ほかの事ことををななる
ら 樂らくと好このむハ苦くるみ程ほどよ
む 秀ひよぬぬく善よき人ひと
う 憂うれさ艱かん難なんを牛うしとけし

の 為 の 哉 カ 先 せん と 四 よ 方 ほう 輝 か 一 いつ の の 光 くわう
のち 後 ご を を 天 てん 下 げ 名 な と 譽 あべ 承 せう 子 し
おろ 愚 ぐ と 曰 いは ふ ふ 也 や 學 がく 子 し 一 いつ 人 ひと
く 苦 く 惱 のう 若 じやく 辛 しん の 目 め 母 ぼ 阿 あ 母 ぼ 不 ふ ぞ
や 野 や 翁 おう 田 でん 夫 ぶ も 書 しよ と 學 がく 子 し 一 いつ 人 ひと

ま 眞 まこと 乃 な 道 みち と ふ ふ む む め め は
けん 顯 けん 然 ぜん 人 じん の ひ と 一 いつ 人 ひと 一 いつ 人 ひと
ふ 富 ふ 貴 き 杜 と 菜 さい 花 か 母 ぼ 一 いつ 人 ひと 一 いつ 人 ひと
あま 二 に 終 しゆう 天 てん 津 しん 神 しん 國 こく 津 しん 神 しん
えい 教 きよう 禮 らい 阿 あ 母 ぼ 一 いつ 人 ひと の 慧 えい 一 いつ 人 ひと

三

へ 手 足 之 徳 母 置 間 ぬ
 あ 朝 寐 八 家 業 一 糸 委
 さ 酒 と 過 せ 名 身 の 言 理
 ま 之 采 女 ぬ 一 ち 女 一 の ぬ
 ゆ 遊 山 見 物 以 一 ぬ 平

め 目 と 閑 一 足 よ 余 志 一
 み 見 好 ぬ 好 ぬ 志 一 の 出 子
 し 幸 抱 強 一 堪 志 一 べ
 五 榮 耀 榮 花 身 一 志 一 理
 ひ 貧 行 一 つ 一 ら 志 一 ぬ

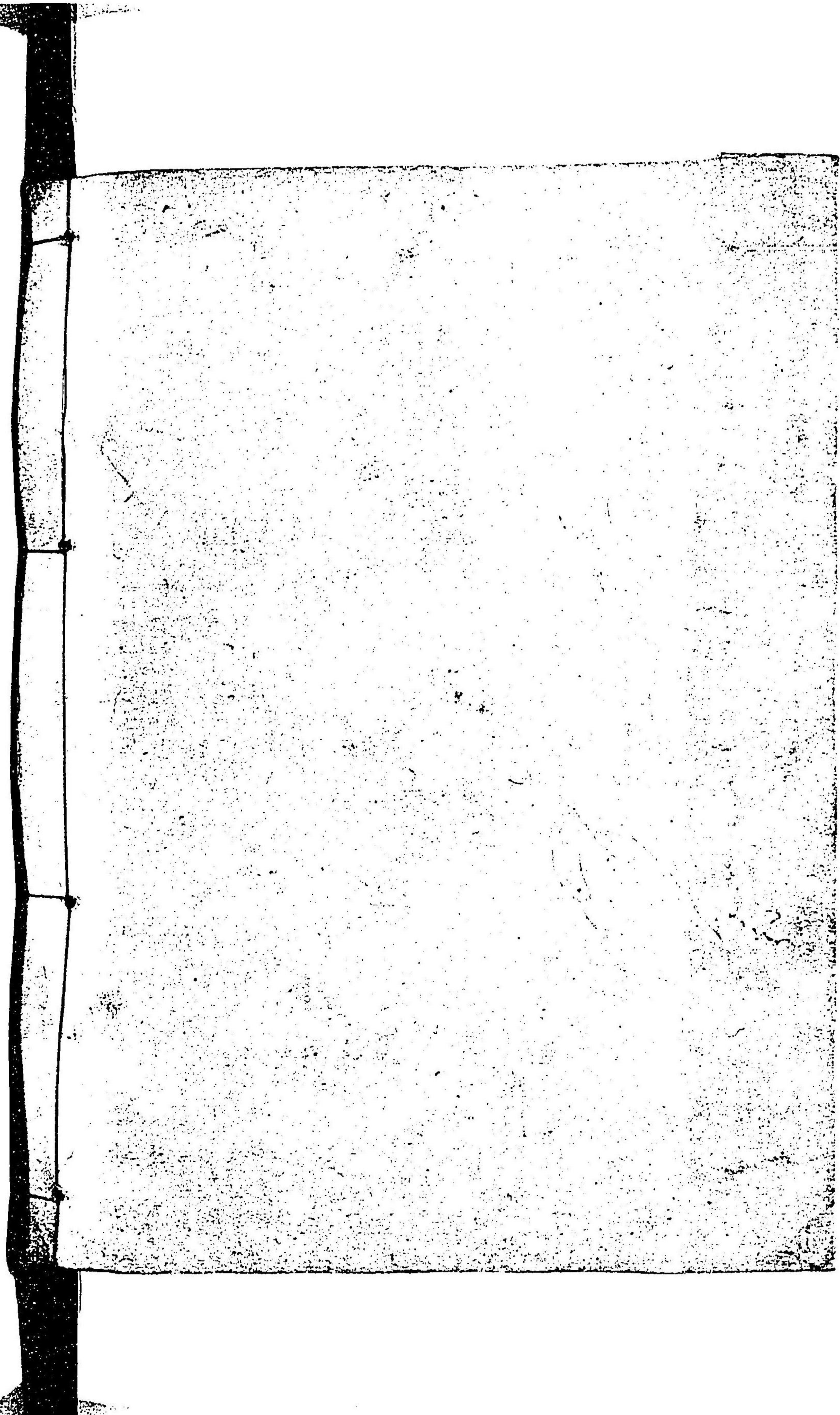
七 世 寸

来くるたみおみひ求道まなぐ

精せいと家業けいごうを能盡よくし

末すえ繁昌はんしょうと承ねりふ相あひまし

2



特 43

915

014169-001-6

特43-915

神宮教会早多与理

田子 丹宮/著

1冊(神15丁)

M14

ABB-0460

